

令和7年産主食用米の生産の目安について

1 要旨・目的

本県の令和7年産の主食用米の「生産の目安」を、広島県農業再生協議会が設定したので報告する。

2 現状・背景

都道府県別の主食用米の生産数量目標の配分が平成30年産から廃止され、広島県農業再生協議会では、需要に応じた主食用米の生産を目指すため、県域で生産すべき量を「生産の目安」として設定し、毎年、公表している。

3 概要

(1) 「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」（令和6年10月30日 国公表）

国においては、需給均衡が図られる令和7年産主食用米の生産量の見通し（生産数量目標に代わる指標）を683万トンとした。

これは、令和6年産主食用米の生産量の見通しと同数の生産量として設定され、令和6年産の予想収穫量679.2万トンに対して3.8万トン多く設定されている。

令和6年産主食用米は、米価の回復や天候に恵まれた影響等もあり、全国的には、昨年と比較して作付面積が約17,000ha増加したほか、生産量も18.2万トンほど増収見込みであることが背景にある（※ 作付面積及び予想収穫量は、令和6年10月25日現在）。

一方、近年では主食用米の需要量が減少傾向で推移しており、令和6/7年の需要量は674万トン、令和7/8年の需要量は663万トンとなる見込みであるため、令和6年6月に153万トンまで減少した民間在庫量は、令和8年6月には182万トンまで回復する見通しである。

	令和6年産 生産量見通し	令和6年産 予想収穫量	令和7年産 生産量見通し	令和6/7年 需要量	令和7/8年 需要量
生産量	683万トン	679.2万トン	683万トン	674万トン	663万トン

※ 令和6/7年：令和6年7月～令和7年6月、令和7/8年：令和7年7月～令和8年6月

(2) 広島県の令和7年産主食用米の「生産の目安」

県域での「生産の目安」は、国の示す「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」の需給見通し等を参考にした上で、県内の実需者からの聞き取りによる「県産米の需要見通し」を勘案しながら設定する。

令和7年産の目安は、令和6年産の「生産の目安」から2,844トン減少した108,956トンとし、今年の予想収穫量より3,256トンの増収を目標とする。

県内の主食用米の作付面積は、令和元年産から毎年約400ha程度減少し続けるなど、全国の動向とは異なっており、国の「需給見通し」に準じた「生産の目安」のままでは、生産量の実績との乖離が広がる一方であるため、実態に応じた目安として設定する。

	生産の目安 (6年産)	予想収穫量 (6年産) ①	生産の目安 (7年産) ②	②-①
生産量	111,800トン	105,700トン	108,956トン	+3,256トン
面積換算値	21,174ha	20,100ha	20,635ha	+535ha

(3) 今後の対応

主食用米の作付面積の減少が続くことにより、県民の消費需要に対して県産米の供給量の確保が懸念されることから、地域ごとの生産実態を分析しつつ、需要に応じた生産体制の維持が図られるよう、市町やJAグループ等と連携して支援していく。